

平成 29 年度

第 1 回 南伊豆町総合教育会議議事録

日 時 平成 29 年 7 月 24 日 (月) 13 時 30 分から 14 時 52 分

場 所 南伊豆町役場 3 階 会議室

出席者 町 長 岡 部 克 仁
委 員 長 白 井 善 吾
委員長職務代理者 下 村 和 雄
委 員 萩 原 利 恵 子
委 員 井 上 誠 也
教 育 長 小 澤 義 一

説明出席者 事 務 局 長 大 野 孝 行
学 校 教 育 係 長 白 井 秀 治
社 会 教 育 係 長 渡 邊 信 枝

傍聴者 1 人

1 開 会

大野事務局長 開会宣言、傍聴者 1 人あり。

《 各委員自己紹介 》

大野事務局長 議長は町長が務める旨述べ、進行を議長に依頼する。

2 議 事

岡部議長 議事録署名人について、教育長及び議長が務めることを述べ、議事に入る。

議事 (1) 町教育行政について事務局の説明を求める。

大野事務局長 今回は岡部町長が就任して最初の総合教育会議のため、町長から町の教育行政の方向性、考え方等を話してもらい、その後、委員との懇談が

できればと考えている。

よろしく願いしたい。

岡部議長

町の教育行政について話をということだが、まだまだ経験も浅いので皆さんの前でお話しする知識も十分でないことも事実。

ただ、小学校、高校でPTA会長を務めたこともあり、中学校でも長きにわたり役員もやってきた。通常よりも多く学校に接してきていると自分でも思っている。

今と当時とは状況も違っているが、少子化というのは大変大きな問題で、下田市でも中学を1校にという話も出ている。南伊豆の中学でも生徒数が少ないため部活動で、本当にやりたい部活動がその中学にはなかったのも他の部に入ったとか、やれる部活動も限られてしまう。そういう意味でも少しでも幅を広げる方向性もいずれは考えなければいけないと感じている。

小学校においても、徐々に児童数が減っていることが資料でも確認できる。小学校についてどう進めていくかは、中学校以上に大きな問題だと思う。

小学生については、少しでも自宅近くの学校へという思いが私の中にある。

先日は、南伊豆中学校へ授業参観に行ってきた。給食調理についても民間委託化されたということで試食も行ったが、特に問題もなくおいしくいただいた。

授業も体育、社会科、音楽と見せていただいた。こどもたちも活発に授業を受けているし、音楽も合唱を聴いて感動した。こどもたちが自ら進んで活動するようになってきているとの話を校長から伺った。大変頼もしく感じたし、先生方にも感謝するところである。

ALT(外国語指導助手)もうまく活用しこどもたちにとって英語がもっと身近なものになってもらうよう英語教育を充実してもらえるとこどもたちにもありがたいのかなと思っている。

こども園でも英語に触れられる機会があると、自然と小中学校へ行った時も英語に接することができるようになるのではないかなとも思う。

吉田町の夏休みが16日という方向に動いていると話は、教員の負担軽減を図るとのことであるが、私も40日程度ある夏休みはもっと短くていいのかなと考えていた。都市部との学力差というものが少なくなってきたほしい。

選挙時のチラシ、いわゆる公約についてだが、子育て支援の充実はしていきたい。子育て世代の負担軽減で高校生の医療費無料化、高校生の通学費の助成、高校生の通学費について町で試算したところ2,500万円くらいである。予算化もしていないことから簡単ではないが、南伊豆町は

特殊で、広くてバス路線も多様の路線が無くてはいけないところであるがその割に乗る人はそれほどいない。

それでも、一人でも多くバスを利用することに繋がってくれたらと思った。どれくらい予算が確保できるかはわからないが、仮に5%でも125万円、最初の年は125万円くらい来年度あたり予算化して定期代の一部助成としてやっていければと考えている。

小さい子どもたちの遊びスペースの確保についても考えていきたいと思う。

町の限られた予算をできるだけ高齢者や子どもたちに使っていきたいと考えている。

以上。

大野事務局長 ありがとうございました。

町長の話の概要は

- ・ 中学校統合については、いずれ考えていかなければならない。
- ・ 小学生については、なるべく近くの学校に通わせてあげたい。
- ・ 中学校の授業参観を実施。給食試食も行った。
- ・ ALTをもう少し活用したい。こども園でも活動することにより、子どもたちにとってより英語を身近に感じられるように。
- ・ 吉田町の夏休み短縮の件
- ・ 高校生への通学費助成の件、5%等補助を来年度予算へ反映。

今の内容にとらわれず、委員と町長の懇談ということで、ご意見、ご質問等があればお願いしたい。

白井係長 町長の話の中にあった高校生の通学の費用が仮の数値ではあるが2,500万円ということで話があったが、その点について補足説明させていただく。

調査対象は現在（平成29年度）の高校1年～3年生。全員がバスに乗っていくと仮定。様々な区間があるが、下田高校、稲取高校の生徒は全て「下賀茂 — 下田駅」の区間の乗車、松崎高校の生徒は「下賀茂 — 松崎高校入口」の区間の乗車、南伊豆分校の生徒は対象外、という設定で試算。

白井委員 5%というのは個々の生徒の定期代の5%か、全体の5%かどちらか。

岡部議長 個人の5%を考えている。保護者の送迎では出ない。自転車でも出ない。

- 白井委員 本人たちが役場に申請にきて、初めて補助がもらえるのか。
- 白井係長 まだ、そこまでは煮詰めていない。
個人へ補助するのか、定期券を5%引きで購入してもらい、のちに事業者へ補助金交付するやり方がいいのか、まだ詰めていない。
- 白井委員 不正ができない形がベターである。
- 岡部議長 定期券のコピーを提出してもらうとか。
- 下村委員 今、話していた方法で進む前提の中でのことだが、公平性の問題がある。南伊豆分校へ通っている子どもたちと、下田へ通っている子どもたちとで同じ高校生で公費で負担するということでバスだからOKで自転車だからダメということで公平性をどう説明するのか。
- 岡部議長 ただ、保護者のために支援するというのではなく、バス路線の確保という概念、保護者への支援も大事であるが、バス会社にバス路線を確保し続けてもらうということも大事である。それも考えて少しでも補助ができれば、送迎するよりもバス利用のほうが良いという保護者が一人でもいてバスに乗せてくるということが最終的な目的。
10%、15%補助とやるのが理想であるが、最初から大きな数値を上げると予算確保が大変なため、とりあえず弱めに言わせていただいた。
メインはバスに乗っていただくこと。そういう考えの下である。
- 井上委員 実際にうちでは送迎をしている。定期代はかなり高い。仮に5%補助としても、バスには乗らないのでは。
- 岡部議長 最終的に乗るか乗らないかは各家庭の判断。補助率はまだ不確定。増減するかもしれない
- 井上委員 町長の話の中で「安心して遊べるこどもの遊び場を確保」というものがあるが、小さい子どもを持つ保護者の間では「子どもたちがそのまま遊べるところがない」という話を聞く。
昔のような空き地、広場がない。
- 岡部議長 こどもの遊び場については、ふるさと公園に昨年遊具を設置した。こどもの遊び場がないことは認識している。財政的な面もあるが整備していきたいと考えている。

14:52 閉会

記事録署名人 岡部克仁

記事録署名人 小澤義一

記事録署名人 大野孝行